

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

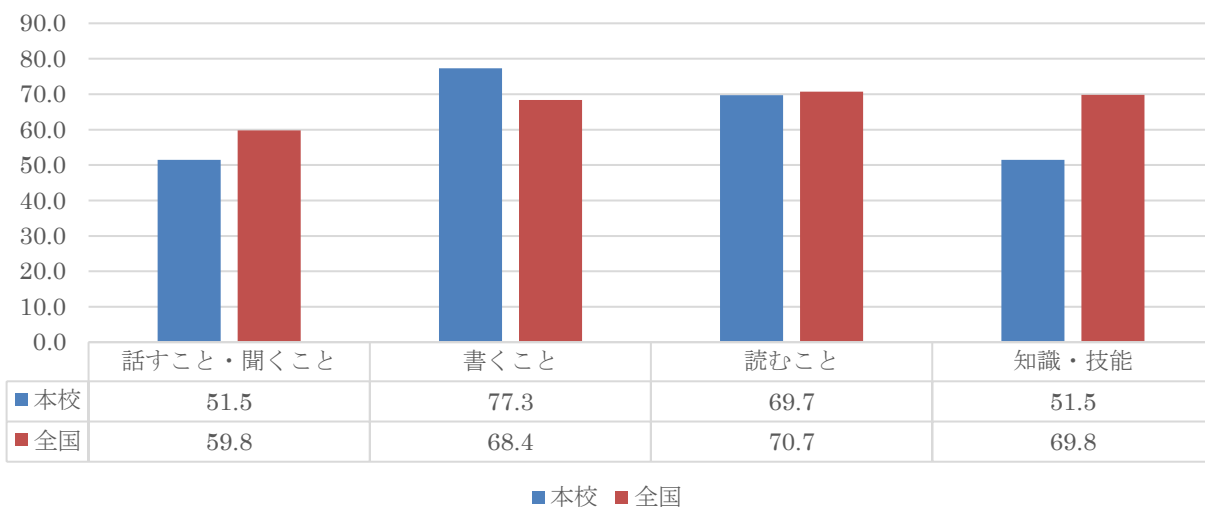
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

全国平均正答率との比較（小学校国語）



1 国 語

(1) 結 果

「書くこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」の正答率が全国平均正答率を上回りました。中でも、「メモを基に文章を完成させる」問題では、全国平均を大きく上回りました。課題は、「話すこと・聞くこと」の中で「相手がなぜそう思うのか」理由を考えることが苦手になっている児童が多くいることです。普段から話し合いの中で「考えの根拠となるもの」を示させる活動が大切だと考えます。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。また、普段から、漢字や言葉の学習などに取り組むことも大切であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

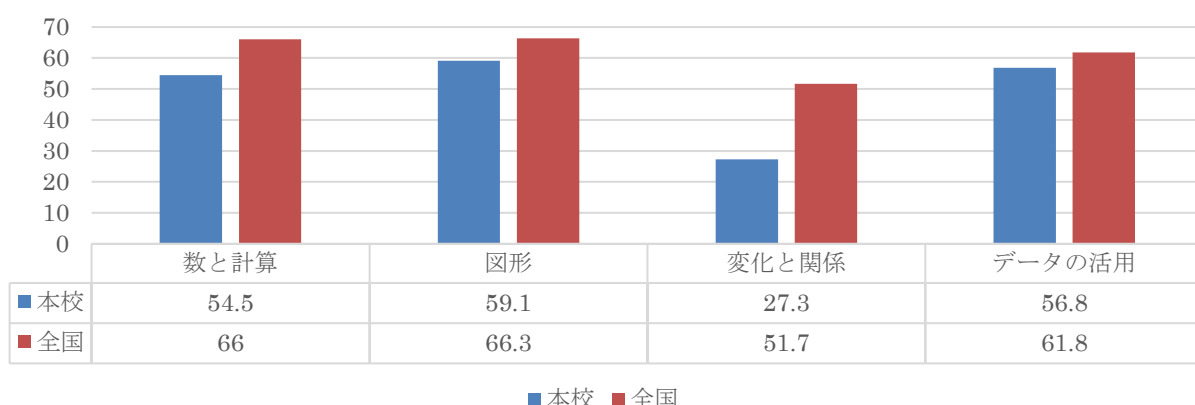
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュース、インターネット等から話題をあげ、自分の考えを話したり、お子様の考えを聞いたりしてみましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。

全国平均正答率との比較（小学校算数）



2 算数

(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を下回っています。無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、円グラフの読み取りが全員正答でした。表やグラフの読み取りについては定着してきていると考えます。

課題は、特に「変化と関係」の領域の、速さと道のりと時間の関係やその意味に関する問題の正答率が全国平均を下回っていました。

式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 一人一人の学習状況を確実に把握し、個に応じた個人用端末等を利用しながら、基礎基本習得のための補充学習と活用力向上のための発展的な学習を取り入れていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 個人用端末を利用した家庭での課題を出し、自ら調べたり、授業の前に考えたりすることで主体的に学ぶ姿勢を育てます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、どのくらい時間をかけて宿題に取り組んでいるのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんへたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものがあります。生活の中で算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	84.6%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	69.2%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	69.2%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	30.8%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	76.9%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	84.6%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	69.2%	79.5%

規則正しく生活することができている児童が多いです。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。今後も家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

自己肯定感やいじめに対しての意識が気になります。道徳の時間や教育相談などを通して、意識を高めていきたいと思います。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	0%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	15.4%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	38.5%	27.0%
「30分より少ない」	23.1%	13.0%
「全くしない」	23.1%	5.3%

家庭学習については、まだ1時間未満の児童が6割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校の教育目標である「学び、ふれあい、のびゆく芙蓉」を常時子どもたちに意識させるようにしています。
- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が表れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- お子さんと話し合っ、学習場所、学習時間を確保してください。学習時間の目安は、「10～15分×学年」です。途中、休憩をはさんでもよいので、集中して取り組むように励ましてください。
- お子さんが勉強しているときには、テレビを消すなど、落ち着いて学習できる環境を整えてください。
- 規則正しい生活と家庭学習が定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。